

病防第33号
令和3年7月8日

各関係機関の長 様
(農政担当)

岐阜県病害虫防除所長

病害虫発生予察情報について(送付)
このことについて、下記のとおり発表したので、指導上の参考にしてください。

記
令和3年度病害虫発生予察注意報第2号
(トビイロウンカ)

令和3年度病害虫発生予察注意報第2号

令和3年7月8日
岐 阜 県

作物名 水 稲

病害虫名 トビイロウンカ

- 1 発生地域 県下全域
- 2 発生時期 7月中旬以降
- 3 発生程度 多い

4 予報の根拠

- (1) 海津市海津町の予察灯で、6月25日にトビイロウンカ(1頭)の初誘殺を確認し、以降、6月27日及び28日に各1頭、7月2日に2頭と、断続的に誘殺を確認している。本虫の誘殺は過去20年間で平成22年と令和2年の2か年のみで、ともに8月以降であったことから、本年の飛来は早い状況である。また、美濃加茂市の予察灯で、6月28日及び30日にトビイロウンカ各1頭の誘殺を確認した。
- (2) 日本植物防疫協会提供のウンカ類の飛来解析で、岐阜県には5月17日、18日、21日、29日、6月4日及び7月2日に飛来した可能性がある。
- (3) 近県の静岡県、三重県、大阪府、奈良県、和歌山県でトビイロウンカの誘殺が確認されており、岐阜県でも広い範囲で飛来したと推察される。

5 防除上の注意事項

- (1) 有効積算温度による発生予測によると、本年は飛来時期が早いためトビイロウンカのほ場での増加に伴う被害が8月中旬から予想される。そのため晩生品種だけでなく早生品種でも被害が発生する可能性があるため、必ず防除を行う。
- (2) 品種ごとの対策は以下のとおりである。
 - ①早生品種
 - ・7月中旬は幼虫の発生時期にあたるため、薬剤による防除を行う。
 - ②晩生品種
 - ・移植時に箱施用剤などでウンカ類防除を行っていない場合や、箱施用剤の農薬成分がウンカ類に対して効果の低いものである場合は、7月中旬と8月中旬に防除を行う。
 - ・箱施用剤の農薬成分がウンカ類に効果が高いものである場合でも、8月中旬は幼虫の発生時

期にあたるため、必ず防除を行う。

(3) 本種の生息部位は、水面近くの株元であるため、薬剤は株元にかかるように丁寧に散布する。

(4) 農薬の使用にあたっては、最新の登録情報を参照し、適正に使用する。

(<https://pesticide.maff.go.jp/> 農薬登録情報提供システム)



図1 令和2年に発生したトビイロウンカによる
坪枯れ被害の状況



図2 トビイロウンカ老齢幼虫（左）と
長翅型成虫（右）



図3 令和2年トビイロウンカ多発生ほ場における
寄生状況